

天 《能管》の響き、

地 《小鼓》の響き



【出演】

能楽笛方 藤田流11世宗家 藤田六郎兵衛
能楽小鼓方 大倉流16世宗家 大倉源次郎

《文化交流使の会》



曲目：揉之段（もみのだん）、序之舞（じょのまい）、獅子（しし）ほか

平成29年7月31日（月）

18:30～19:30（18:00 開場）



- 主催 文化庁/霞が関コモンゲート管理組合/新日鉄興和不動産株式会社
- 入場無料（事前申込不要）

- 場所 霞が関コモンゲート東館2階 共用ロビー
東京都千代田区霞が関3-2-2
- お問合せ先
文化庁 長官官房政策課
文化広報・地域連携室
TEL 03-5253-4111 内線(2810)



霞が関コモンゲート
東館2階共用ロビー



藤田六郎兵衛

能楽笛方 藤田流 11 世宗家 重要無形文化財〈能楽〉総合指定保持者

名古屋音楽短期大学（現・名古屋音楽大学）声楽科を首席で卒業。

5 歳で初舞台を踏み、15 歳までに能の主要曲である「鷺乱」「猩々乱」「望月」「石橋」「翁」「道成寺」を異例の若さで披曲。

昭和 55 年藤田流 11 世宗家となり、昭和 57 年家名『六郎兵衛』を襲名。

能の最高曲，三老女「姨捨」「檜垣」「関寺小町」は数度の演奏を重ねる。

新作能や復曲能への出演，笛作曲も多く勤め，ヨーロッパ，ポーランド，モナコ，パリ，ニューヨーク，ワシントン公演など海外での演奏も多い。

また「愛・地球博」，「加西市播磨国風土記 1300 年祭」を始めてとして，能楽の企画・構成・演出も多く手がける。平成 25 年フランス・シャトードゥフェールでの能フェスティバルにて演奏，名古屋能楽堂『やっとかめ能楽舞台』にて企画・構成・演奏。（～平成 26 年）

平成 26 年 Singapore international festival of arts 2014 にて野村万作氏，野村萬斎氏とともに『Sambaso/ 三番叟』を上演。

平成 28 年（2 月～3 月）文化庁「文化交流使」に選ばれ，37 日間イギリス・フランス・韓国にて講演及び公演，（10 月）アウシュビッツにて前ポーランド大使作の新作能「鎮魂」を上演（作曲），同月，日本初演にて天皇，皇后両陛下ご臨席のもと「鎮魂」を上演，（11 月）8 時間におよぶポールクロード作の演劇「縞子の靴」（作曲），（12 月）坂本龍一氏と吉永小百合氏「朗読の会」にて即興演奏を行う。

今年，平成 29 年（2 月）オーチャードホールにて，日本とアイルランドの文化を融合させる画期的なプロジェクト，ケルティック能「鷹姫」の能楽音楽監修を手がける。

現在，東京新聞に「銀河のかなたに一笛方芸談―」連載中（平成 29 年 4 月より）

大倉源次郎

1985 年能楽大倉流小鼓方十六世宗家継承（同時に大鼓宗家預かり）。

流派を越えて 21 世紀の能を考える「能楽座」座員。

20 代より通常の能公演はもとより，誰もが日本文化である「能」と気軽に出会えるよう「能楽堂を出た能」をプロデュースし，「近鉄アート館能」「六甲アイランド能」などを制作する。新作能，復曲能にも数多く参加し，高浜虚子原作の新作能「実朝」は学友の「ホトトギス」編集長稲畑廣太郎と共に制作し各地で上演されている。

国立能楽堂制作の新作能，新作狂言では，原作馬場あき子「額田王」，原作瀬戸内寂聴「夢浮橋」など。観世流大槻文蔵制作の復曲能では「刈萱」「多度津左右衛門」など。

観世流梅若六郎玄祥制作の新作能では「ガラシャ」「空海」「ネキヤ」などに参加。また様々な海外公演にも参加。パリ，ニューヨーク，シンガポール，ミラノ，ローマ，ポーランド，イスラエル，ロシア他 25 カ国以上，延べ 30 ツアー以上，45 公演以上を数える。

子供向けの能楽体験講座も各地で開催，鼓の産地櫻井市の多武峰談山神社では小鼓体験教室「鼓魂（こだま）の会」を毎年開催し好評を得ている。